



平成18年10月31日

各 位

会社名 タカセ 株式会社
代表者名 代表取締役社長 眞田 洋
(JASDAQ コード番号: 9087)
問合せ先 専務取締役総合改革本部長
金子 重男
(TEL. 03-3571-9497)

平成19年3月期中間および通期業績予想(連結・個別)の再修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年8月8日に公表した「平成19年3月期中間および通期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」の業績予想に修正事項が生じたため、中間および通期の業績予想(連結・個別)を下記のとおり再修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成19年3月期中間業績予想の修正

①中間連結業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	営業収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	6,800	110	10
今回修正予想(B)	6,750	20	△50
増減額(B-A)	△50	△90	△60
増減率(%)	△0.7%	△81.8%	-%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期中間)	6,474	271	155

②中間個別業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	営業収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	6,400	90	0
今回修正予想(B)	6,230	15	△50
増減額(B-A)	△170	△75	△50
増減率(%)	△2.7%	△83.3%	-%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期中間)	6,116	243	138

2. 平成19年3月期通期業績予想の修正

①通期連結業績予想数値の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	14,400	440	200
今回修正予想（B）	13,400	180	40
増減額（B－A）	△1,000	△260	△160
増減率（％）	△6.9%	△59.1%	△80.0%
（ご参考） 前期実績（平成18年3月期通期）	13,569	597	337

②通期個別業績予想数値の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	13,500	360	150
今回修正予想（B）	12,500	150	30
増減額（B－A）	△1,000	△210	△120
増減率（％）	△7.4%	△58.3%	△80.0%
（ご参考） 前期実績（平成18年3月期通期）	12,653	526	293

3. 修正の主な理由

（1）中間期の個別決算の業績予想

今中間期の個別業績につきましては、平成18年8月8日に修正いたしました予想を遺憾ながらさらに下回る見通しであります。

①4月より新しく賃借を開始した川崎市大型倉庫について、8月段階で生じておりました空スペースを早期に埋めるべく営業活動を進めましたが、なお当初計画規模の総合受託型新規顧客の獲得に至っておらず、この間一部当面对応で導入した保管型スポット顧客に関し不採算が生じ、さらに、既存顧客の増坪に備えた一部顧客の新倉庫への移動のための対応により費用と非効率が発生したこと、

②音楽映像商品取扱業務において、DVD、CDとも総じて低迷気味であり、昨年対比ヒット作にも恵まれず、取扱数量が当初計画を下回る状況が続いていること、

③個別有力顧客の収受料金値下げに対応せざるを得なかったこと、

等のマイナス要因があり、第2四半期に相応の改善を目論んだもののその改善度合いが目論みを下回りましたことから、営業収益につきましては、前回予想比2.7%減の62億30百万円となり、経常利益につきましては、前回予想比83.3%減の15百万円となる見込みであります。

中間純利益につきましては、前回予想比50百万円減となり、経常利益が低水準となりますことから、第1四半期で計上された退任取締役に係る特別退職慰労金等の特別損失86百万円の影響により、純損失50百万円となる見込みであります。

(2) 中間期の連結決算の業績予想

中間連結決算の業績予想は、中間個別業績のマイナス要因のほか、(A) 陸上運送子会社における燃料費高騰などのコストアップ、(B) 作業統括子会社における取扱数量の減少や作業人員の習熟度面による作業効率の低下、等の利益圧迫要因があって、営業収益は前回予想と大きくは変わらないものの、経常利益において前回予想比81.8%減の20百万円、中間純利益において前回予想比60百万円減の、純損失50百万円となる見込みであります。

(3) 通期の個別決算の業績予想

通期の個別業績の予想は、中間期の業績予想の修正、および今後の見通しによりまして、平成18年8月8日に修正いたしました予想をさらに下回る見通しであります。

①川崎市賃借大型倉庫において、全力をあげて固定顧客導入を進め採算改善に努めており漸次進展をみておりますが、前回予想対比では遅れが生じていること、

②音楽映像商品取扱業務において、現在の諸状況からみて取扱数量が前回予想を下回りそうであること、

③当社元受ながら主として外部業者に委託しているアウトソーシング業態である個別顧客の業務について、11月から縮小を余儀なくされること（営業収益は減少しますが経常利益面ではマイナス僅少であります）、

などのマイナス要因により、営業収益につきましては前回予想比7.4%減の125億円となり、経常利益につきましては、下期期初から作業の大幅効率化主体にコスト削減施策に取り組んでおりますが、前回予想比58.3%減の1億50百万円となり、当期純利益につきましては、経常利益の減少にともなって、前回予想比80.0%減の30百万円となる見込みであります。

(4) 通期の連結決算の業績予想

通期の連結業績の予想につきましては、主に個別の業績予想の修正要因によって、上記のとおり修正いたします。

(ご留意事項)

上記の業績予想につきましては、当社が現時点で合理的と判断した一定の前提のもとづいたものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上